

OFFICIAL ANNOUNCEMENT

FDJ2 ロールケージRULEに関する緩和のお知らせ

FDJ2参加チームの皆様へ

2022年度に緩和しておりましたロールケージですが、2023年初戦から新規格のロールケージが必要になる形で進めてまいりました。しかし、各方面との話し合いや、今までのラウンドに於いての速度差異や接触率などを考慮し、2023年度は事前にロールケージのスペック(仕様や製造メーカー)の登録申請を頂いた参加者のみに2022年度同様の緩和した形で進めていくことが決定いたしました。

今後の方針としましては、2024年度から年間エントリー者で国際サーキットを走行する車両は新規格でのロールケージが必要になりますので、現段階から準備をよろしくお願いたします。また、これまでワンメイクレースとして同一タイヤで行って来ました経験から、国際サーキット以外のコースにおいては、危険性が最小限に抑えられると考え、2024年度も本年同様緩和したルールで行っていく方向で進めてまいります。2024年度は国際サーキットでの参加を希望しないスポット参戦を希望されるチームの車両に関しては、ロールケージの緩和での参加を認めることとしますが、国際サーキット以外のコースにおいてもFDJ同様のロールケージで参加することドライバーの安全を担保する装備品としての装着を強く推奨いたします。この規定は安全上を考えた上でのレギュレーションとなりますので、ご理解のほどよろしくお願いたします。また新規格のロールケージをすでに用意されましたFDJ2参加者には心より感謝いたします。

なお、緩和したルールでの参加される方はロールケージ規定緩和登録申請を事前に提出してください。

2022年度参加していた車両でロールケージルールの緩和車検を希望する場合、2023年度に参加するためにはロールケージ規定緩和登録申請が事前に必要となります。

以下の緩和規定をご理解の上、ご了承のほどよろしくお願いたします。

FDJ2 2023年度緩和項目

2023年度も2022年同様、以下の緩和項目が適用されます。

ロールケージ

FDJ2・FDJ共通の規格といたしました。2023年初戦から新規格のロールケージが必要になります。今までは、フレームへの取り付けが6ポイント以上になっておりましたがイントルージョンバー(足元保護)左右含みでフレームへの取り付けは8ポイント、取付はボックス溶接のみとし補強としてのロールケージからフレームへの接続は禁止で補強はロールケージのパイプとパイプの間で接続してください。(ボルトジョイントの分解式は使用は2023年から禁止になります)2022年はボルト固定式のロールケージも参加できます。ハーネスバーの溶接による取り付けを強く推奨します。ハーネスバーの材料はメインフープと同じ材料を使用してください。

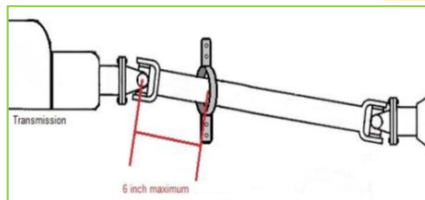
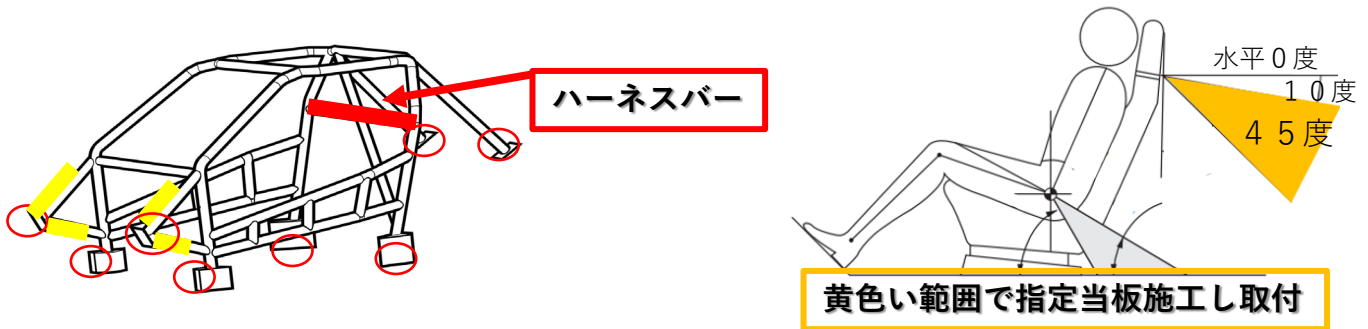
2材料

パイプの規格ですが今まで通りの材質で継ぎ目なし引抜鋼管38mm×2.5mm以上(メインフープ以外のパイプも38mm×2.5mm以上すべての部分での肉厚を2.5mmと設定いたします)よって今現在FDJで使用されている車両の45mm×2.5mmメインフープ以外の部分を40mm×2.0で製作された車両は2023年以降も、今までどうり使用できます。ただし、フレームへの取り付けポイントが、イントルージョン含みで、8ポイントまでなので、余計なバーは外していただきます。なおアンチホイールイントルージョンが必要になります。そして、サイドプロテクション(ドアバー)は、指定の形状の物を取り付けていただきます。

RIGHT HAND DRIVE CONFIGURATION フレームへの取り付けは、上の8ポイントのみです。
この図が基本構成になります。プロペラシャフト保持ループ純正ミッションで、無加工のプロペラシャフトを使用している場合のみ緩和いたします。エンジンミッションを別メーカー（日産にトヨタなど）に、載せ替えてありその際にプロペラシャフトを切断して溶接をし直している場合 シンケージャルミッションに寄せ換えて同時にプロペラシャフトを、社外の物に変更した場合はもしくは、社外のプロペラシャフトに交換した場合は、以下に示す、プロペラシャフト保持ループを取り付けていただきます。プロペラシャフトの前方のユニバーサルジョイントから6インチ（152.4mm）以内の場所にボディにしっかりと固定されたプロペラシャフト保持ループの着用が必要となる（図9参照）。プロペラシャフト保持ループは最低0.25インチ（6.35mm）厚×2インチ（50.8mm）幅の鋼製ストラップ、または0.875インチ（22.225mm）×0.065インチ（1.651mm）厚のパイプで構成され、プロペラシャフトのユニバーサルジョイントの破損時に保持できる様に固定する。（Summit Racing- Part number SUM-G7900 参照）FDJ2は、室内カメラの設置がありません。

これはJAFのベルト取り付けの角度です。FDJ2に関しては、ハーネスバーは強く推奨致します。と同時に、ショルダーハーネスの角度につきましては、シートのショルダーハーネス穴から水平下方向へ45度以内にショルダーハーネスを取り付けて下さい。この場合フレームにアンカーボルトを取り付ける事になると思いますが、その際には、裏側に最低3mmのあて版を当てて補強して、そこにアンカーボルトをナットでしっかりと固定して下さい。

取り付け具のボルト、ナットは以下とする。（JIS B0208参照）材料S38C～S45Cまたは同等ネジ呼び名7/16-20UNF-2A/2Bナット有効ネジ高さ10mm以上補強版新たに設置される取り付け点は、以下の補強板により補強すること。設置する場所の車体板形状に一致させること。材質SPHCまたは同等板厚 $t = 3.0\text{mm}$ 以上大きさ（有効面積） 40cm^2 以上車体への固定は、溶接。（ 40cm^2 は、一辺が6.4cmの正方形が 40.96cm^2 です。）



2023 ロールケージ規定緩和登録申請

参加ドライバー名 _____
参加チーム名 _____
参加車両 車台番号 _____
参加車両 車名 _____

装備されたロールケージのメーカー名および材料のパイ数と厚み
もしくは製作した工場名

ポイント数 (イントリュージョンばーを含めて最大8P)

サイドバーメーカーおよび鋼材のパイ数と鋼材の厚み

